

[成果情報名]カンキツ「不知火」の早期減酸タイプ新品種「安芸の輝き」の育成

[要約]カンキツ新品種「安芸の輝き」は、「不知火」の珠心胚実生から選抜し、外観は親と同等であるが、減酸が早く、1月下旬以降に食味良好となるカンキツ新品種である。

[キーワード]カンキツ、新品種、育種、珠心胚実生、安芸の輝き

[研究所名]広島総研・農技セ・果樹研究部

[代表連絡先]電話 0846-45-5471

[区分]近畿中国四国農業・果樹

[分類]技術・参考

[背景・ねらい]

広島県は瀬戸内海の温暖な気候に恵まれ、中晩柑類の栽培が盛んであり、「不知火」も栽培されているが、降水量が少ないために減酸が遅延し、越冬栽培で対応している。そこで、珠心胚育種法を用いて、「不知火」より減酸が早い新品種を育成する。

[成果の内容・特徴]

1. 「安芸の輝き」は、2001年に「不知火」の珠心胚実生から選抜し、外観は「不知火」と同じである（図1）。
2. 育成地（東広島市安芸津町）における満開期は5月中旬で、着色は11月中旬から始まり、成熟期は1月下旬である。
3. 果実の大きさは「清見」より大きく、「不知火」よりやや大きく果実重は246～272gである（表1）。
4. 果形は、対照品種の「不知火」や「清見」に比べてやや腰高である（表1）。
5. 1月中旬の糖度は「不知火」に比べて平均0.9°Brix低いが、クエン酸含量は0.3～0.5%低い（表1）。
6. 果皮は橙色で、果汁は多く、じょうのう膜の硬さは中程度で、種子はない（表2）。
7. 樹勢は強く、枝梢にトゲは多い（表2）。
8. 以上の結果より、「安芸の輝き」は「不知火」より、減酸が早く、1月下旬に、収穫ができるカンキツ新品種である。

[成果の活用面・留意点]

1. 果実肥大と減酸を促すために、夏期にかん水を行うことが望ましい。
2. 2009年3月6日に品種登録された。
3. 当面は広島県内のみでの普及を図る。

[具体的データ]

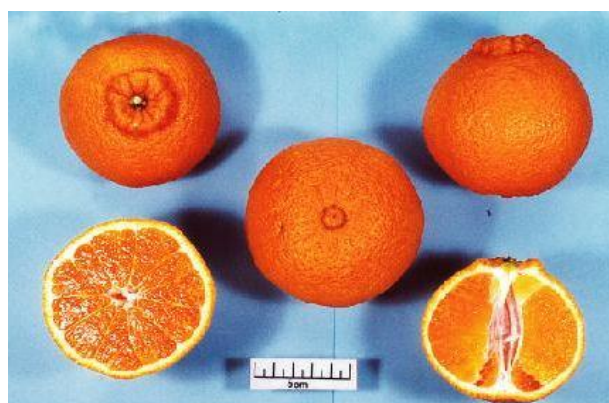


図1 「安芸の輝き」の果実

表1 「安芸の輝き」の果実品質^z

品種	年次 ^y	果実重 (g)	果形指数 ^x	糖度 (° Brix)	酸度 (%)
安芸の輝き	2000	246	99	12.3	1.3
	2001	258	100	12.4	1.2
	2002	272	107	14.1	1.4
不知火 (対照)	2000	262	105	12.9	1.6
	2001	194	104	13.5	1.5
	2002	236	117	15.0	1.9
清見 (対照)	2000	-	-	-	-
	2001	-	-	-	-
	2002	184	117	11.7	1.5

^z 特性値は種苗特性分類調査報告書 (1994年) による

^y 調査日は、2000年1月15日、2001年1月15日、2002年1月16日

^x (横径/縦径) × 100

調査樹は、1997年4月に11年生瀬戸温州の珠心胚実生を中間台として高接ぎを行った樹

表2 「安芸の輝き」の樹および果実特性^z

品種	樹勢	トゲの 発生 程度	果皮色	粗滑	剥皮性	果汁の 多少	じょうのう膜 の硬さ	種子数 (個)
安芸の輝き	強	多	橙	中	易	多	中	0.0
不知火 (対照)	弱	中	濃橙	中	易	多	中	1.7
清見 (対照)	中	少	橙	やや滑	やや難	多	中	0.7

^z 特性値は種苗特性分類調査報告書 (1994年) による

(川崎陽一郎)

[その他]

研究課題名：産地活性化を狙った県独自性の高いカンキツ類の新品種育成

予算区分：県単

研究期間：2000～2008 年度

研究担当者：長谷川美穂子、川崎陽一郎、中谷宗一、古田貴音、椛島洋介、野上暁子、大政英司

発表論文等：長谷川ら「安芸の輝き」品種登録 2009年3月6日 (第17733号)